

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 25 日現在

機関番号：23601
 研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2009～2012
 課題番号：21390593
 研究課題名（和文）小児がんの子どもと家族を中心とした多職種協働チームの看護師支援プログラムの開発
 研究課題名（英文）Development of Support Program for Nurses Working in Multidisciplinary Teams That Care for Children with Cancer and Their Families
 研究代表者
 内田 雅代（UCHIDA MASAYO）
 長野県看護大学・看護学部・教授
 研究者番号：70125938

研究成果の概要（和文）：

本研究は、特別なニーズをもつ小児がんの子どもと家族をケアする経験がそれほど多くないわが国の看護の現状をふまえ、多職種協働チーム医療を担う看護師を支援するためのプログラムとして、研究者らが先行研究において開発した「小児がん看護ケアガイドライン」の活用・普及、およびさらなる内容の検討を行いながら、ケアの標準化を視野に入れ、「小児がん看護ケアガイドライン」を改訂することにより、わが国の小児がんをもつ子どもや家族のニーズにそったケアを実践するための看護師支援をめざした。

研究成果の概要（英文）

Nursing care for children with cancer and their families presents various problems in Japan. Many nurses have limited experience in the care for children with cancer, and there are no benchmarks for providing such care. Aim of the support programs were to support nurses working in multi disciplinary team that care for children with cancer and their family by revising “the nursing care guidelines” to standardize the care.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2010 年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2011 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2012 年度	1,700,000	510,000	2,210,000
年度			
総計	8,600,000	2,580,000	11,180,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：小児がん、多職種協働チーム、看護師の役割

1. 研究開始当初の背景

小児がんは、多剤併用化学療法、放射線療法、手術療法、造血細胞移植などの集学的治療の導入により、70%以上の5年生存率となり治癒する時代になったといわれる。しかし、子どもや親は、診断直後の混乱の最中に多様

な治療法の説明をうけ選択を迫られ、過酷な治療過程で命を失う危険もあり、また、復学や社会復帰、就労及び結婚などに際し本人が対処していくための支援体制は十分とはいえない。さらに治療終了後の晩期合併症や終末期ケアの問題など、子どもの QOL の視点

からは、さまざまな課題が山積している。平成19年4月に施行されたがん対策基本法には、1) がんに関する専門的、学際的又は総合的な研究の推進とその成果の普及、活用、発展、2) がん医療の均てん化、3) がん患者本人の意向を尊重したがんの治療法の選択に関することが基本理念として定められ、がん医療の地域格差の是正、がん患者の意向の尊重を明記することでがん医療の改善を求めている。同年6月に厚生労働省から出されたがん対策推進基本計画には、「小児がんの子供を持つ家族の支援体制」と「小児がんの長期予後フォローアップ体制」の2点がとりあげられている。

このような特別なニーズをもつ小児がんの子ども医療体制として、わが国では多くの病院で希少疾患である小児がんの子ども達を診ている現状にあり、小児がんに関わる看護師の専門性も育ちにくい状況にある。

小児がんの子どもと親をケアする看護師には、ケアの専門家としての役割だけでなく、子どもや家族を中心とした専門職者・支援者の協働によるトータルケアを推進する役割が求められている。

2. 研究の目的

多職種協働チーム医療を担う看護師を支援するために、先行研究において開発した「小児がん看護ケアガイドライン」の活用・普及、およびさらなる内容の検討を行い、ケアの標準化を視野に入れ、わが国の小児がんの子ども、家族のニーズにそったケアを実践するための看護師支援プログラムを開発することを目的とする。

3. 研究の方法

課題(1)：欧米の小児がん看護学会および先駆的に小児がんの子どもへのケアを行っている病院等の見学を通して、わが国における小児がんの子どもと家族への看護ケアの向上のための具体的な実践への示唆を得る。

課題(2)：標準的ケアがあまり実施されていないと予想される小児がん看護領域に関して、看護師および看護管理者を対象に全国調査を行う。その実態を把握するとともに、ケアが実施されている場合には、どのような基準で行っているかなど、どのようなエビデンスを用いているかに関して明らかにする。

課題(3)：「小児がん看護ケアガイドライン2008」のさらなる検討のために、年1回研修会を開催し、ガイドラインの普及を図るとともに、その地域のニーズに応じた小児がん看護ケアに関して、地域の現状と課題を明らかにしさらにその対策に繋がるシンポジウムなどを企画し、参加者との意見交換やアンケート結果から、ガイドラインのさらなる検討のための資料収集を行う。

課題(4)：多職種協働チームにおける看護師の役割を明らかにするために、チーム医療を実践している看護師へのヒアリング調査を実施する。

4. 研究成果

研究を遂行するために、研究代表者・分担者(6名)、連携研究者(9名)、研究協力者合計(4名)計19名を、上記の課題(2)を主に担当する「看護のエビデンス検討班」、課題(3)を主に担当する「ガイドライン検討班」、課題(4)を主に担当する「多職種協働チームの看護師の役割検討班」に分かれて、活動を行った。

課題(1)では、英国と米国の小児がん看護学会への参加と先駆的に小児がん看護ケアを行っている施設への訪問により、患者中心ケアの実践と小児がん看護の専門性が進んでいることで、わが国の小児がん看護の目指す方向性が確認され、また、子どもへの説明のための具体的な取り組みなどわが国でも活用できる可能性のある具体策なども確認できた。

課題(2)の看護ケアのエビデンス検討班では、終末期ケアと長期フォローアップに関する看護の取り組みに焦点をあてた。終末期においては、緩和ケアチームが活躍している状況が見られたものの、未だ十分機能するまでに至っていないところもある。しかし、今後、臨床看護の場を変えていく力強い存在であることがうかがえた。長期フォローアップに関する看護の取り組みは多くなく、外来や病棟看護師が関心を持ち始めているが、システムとして機能していくには、今後、看護外来などの設置が課題となるのではないかと考えられる。

課題(3)小児がん看護ケアガイドラインの検討班では、研修会での意見交換などや、(2)の全国調査の結果などから、臨床にインパクトのある形で指針を提示していくこと、特に子どもにとって望ましいことが明らかかなものは、明確にその理由を記し推奨していくことなどが合意された。いろいろな考え方の中で、どの方策をとることがより子どもや家族のニーズに繋がるかを伝え、できるだけそれらをわかりやすく示すためのアイデアを出し合い、看護ケアのガイドマップや新人看護師に活用してもらうために基本的知識の項を追加した。

課題(4)では、専門看護師やエキスパート看護師へのヒアリング調査により、看護師が多職種協働チームの中でどのように機能しているか、どのような役割を担っているか、チームの目標の合意やチームへの子ども・家族の参加があるかなど、実情と課題を確認した。

ヒアリング調査は、3例のみで終わってお

り、引き続き検討していく必要がある。

各班の研究活動から明らかになったさまざまな実態や看護への示唆を、全体会議やメール会議にて話し合い、最終的には、「小児がん看護ケアガイドライン2012」へ成果を集約した。小児がん看護ケアガイドラインは、冒頭に、ガイドマップを配置し、治療経過にそって小児がんの子どもや家族の体験が一目で見渡せ、また、ガイドラインのどこを参照すれば、子どもや家族の体験を理解し、看護援助に繋げられるかをわかりやく工夫した。

今後、このガイドラインをどのように臨床活用し、その評価を行うかが課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

① 白井史、内田雅代、梶山祥子 (他5名)、小児がんの子どもが悪心・嘔吐に関する症状マネジメントにおける看護師のかかわり、小児がん看護、査読有、Vol.8 (掲載予定)

② 丸光恵、富岡晶子、中尾秀子 (他11名)、小児がん長期フォローアップに関する看護の現状と看護に困難を感じた事例の実際-外来・病棟看護管理者を対象として-、日本小児血液がん学会雑誌、査読有、50巻第2号、2013 (掲載予定)

③ 富岡晶子、丸光恵、小川純子 (他8名)、小児がん経験者の看護に関する看護師の認識と実態、日本小児血液・がん学会雑誌、査読有、50巻2号、2013 (掲載予定)

④ 内田雅代、多職種協働チームにおける看護師の役割、小児看護、査読なし、2013、7月号 (掲載予定)

⑤ 竹内幸江、高橋百合子、吉川久美子 (他8名)、終末期の小児がん患者のケア体制および看護師へのメンタルヘルスサポート体制の実態-病棟管理者への調査より-、小児がん看護、査読有、Vol.7、2012、39-45

⑥ 大脇(高橋)百合子、丹下真希、梶山祥子、第33回国小児血液腫瘍看護学会議参加およびロサンゼルス小児病院訪問報告、小児がん看護、査読なし、Vol.5、2011、123-127

⑦ 小原美江、英国訪問報告 PONF (Paediatric Oncology Nursing Forum) に参加して、小児がん看護、査読なし、Vol.5、2011、115-120

[学会発表] (計10件)

① 内田雅代、小児がんをもつ子どもと家族を

中心とした多職種協働チームにおける看護師の役割について、第10回日本小児がん看護学会、2012年12月1日、横浜市

② MASAYO UCHIDA: NURSES' PERCEPTIONS THEIR INTERVENTIONS IN SYMPTOM MANAGEMENT FOR CHILDREN WITH CANCER, 43TH CONGRESS OF INTERNATIONAL SOCIETY OF PAEDIATRIC ONCOLOGY, October 29, 2011, Auckland

③ 白井史、小児がんの子どもが悪心・嘔吐に関する看護師の認識-子ども・家族が主体的に症状マネジメントを行うために-、第9回日本小児がん看護学会、平成23年11月27日、前橋市

④ 足立美紀、小児がんの子どもへの口腔ケアへの看護師の関わり、-子ども・家族が主体的に症状マネジメントを行うために-、第9回日本小児がん看護学会、平成23年11月27日、前橋市

⑤ 丸光恵、小児がん治療終了者への看護の実態-小児病棟および外来看護管理者へのアンケート調査より-、第9回日本小児がん看護学会、平成23年11月27日、前橋市

⑥ 富岡晶子、小児がん経験者への看護に関する看護師の認識、第9回日本小児がん看護学会、平成23年11月27日、前橋市

⑦ 竹内幸江、終末期の小児がん患者のケア体制および看護師へのメンタルサポートに関する看護の実態 -病棟管理者への調査より-、第9回日本小児がん看護学会、平成23年11月27日、前橋市

⑧ 高橋百合子、小児がん患者の死を経験した看護師が望むメンタルサポート、第9回日本小児がん看護学会、平成23年11月27日、前橋市

⑨ MASAYO UCHIDA: DEVELOPMENT OF THE SUPPORT PROGRAM FOR NURSES WORKING WITH OTHER PROFESSIONS IN THE CARE FOR CHILDREN WITH CANCER AND THEIR FAMILIES, 42TH CONGRESS OF INTERNATIONAL SOCIETY OF PAEDIATRIC ONCOLOGY, October 24, 2010 BOSTON

⑩ 内田雅代、小児がんの子どもと家族を中心とした多職種協働チームの看護師支援プログラムの開発：病気・病状の説明時の援助、第8回日本小児がん看護学会、平成22年12月18日、大阪市

[図書] (計1件)

内田雅代(著者代表)(研究班メンバー執筆)、
宮澤印刷、小児がん看護ケアガイドライン
2012、特定非営利活動法人日本小児がん看護
学会、2013、72 ページ

6. 研究組織

(1) 研究代表者

内田 雅代 (UCHIDA MASAYO)
長野県看護大学・看護学部・教授
研究者番号：70125938

(2) 研究分担者

竹内 幸江 (TAKEUCHI SACHIE)
長野県看護大学・看護学部・准教授
研究者番号：00311902

白井 史 (SHIRAI FUMI)
長野県看護大学・看護学部・助教
研究者番号：30420699

高橋 百合子 (TAKAHASHI YURIKO)
長野県看護大学・看護学部・助教
研究者番号：00438178

足立 美紀 (ADACHI MIKI)
長野県看護大学・看護学部・助教
研究者番号：10457965

丸 光恵 (MARU MITSUE)
東京医科歯科大学大学院・保健衛生学研究
科・教授
研究者番号：50241980

(3) 連携研究者

石川 福江 (ISHIKAWA FUKUE)
杏林大学・保健学部・教授
研究者番号：90406900

小川 純子 (OGAWA JUNKO)
淑徳大学・看護栄養学部・准教授
研究者番号：30344972

上別府 圭子 (KAMIBEPPU KEIKO)
東京大学大学院・医学系研究科・教授
研究者番号：70337856

塩飽 仁 (SHIWAKU HITOSHI)
東北大学大学院・医学系研究科・教授
研究者番号：50250808

富岡 晶子 (TOMIOKA AKIKO)
東京医療保健大学・医療保健学部・准教授
研究者番号：70337856

野中 淳子 (NONAKA JUNKO)
神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・
教授
研究者番号：

藤原 千恵子 (FUJIWARA CHIEKO)
大阪大学大学院・医学系研究科・教授
研究者番号：10127293

前田 留美 (MAEDA RUMI)
東京医科歯科大学大学院・保健衛生学研究
科・助教
研究者番号：60341971

森 美智子 (MORI MICHIKO)
日本赤十字秋田看護大学・看護学部
研究者番号：10248966

(4) 研究協力者

浅田 美津子 (ASADA MITUKO)
国立成育医療研究センター・看護師長

小原 美江 (OHARA YOSHIE)
千葉県こども病院・看護師長

梶山 祥子 (KAJIYAMA YOSHIKO)
神奈川県立こども医療センター・ボラン
ティアコーディネーター

吉川 久美子 (YOSHIKAWA KUMIKO)
聖路加国際病院・副看護部長